

男女共同参画・働き方改革委員会企画 JOYFUL通信

◆◆◆ はばたけ女性医師! ◆◆◆

八柱みどりの整形外科院長

宗像 薫

平成6年東京女子医大卒業の宗像と申します。現在は千葉県松戸市でクリニックを開業して9年目になります。女性医師が増えており、学会場では託児所も設置され喜ばしい限りです。医師になって四半世紀以上、少し私の経験談を含め、昨今感じることを述べさせていただきます。

昔は「女性医師は男性の2倍働け」「女を捨てなきゃ仕事は全うできない」など諸先輩方から言われてきました。医学部生の3～4割が女性になり、そのような根性論では女性医師はもたず、医局は成り立ちません。

女子医大の同期は私を含め10人が整形外科を志望し、大多数は他大学の医局に入局しました。入局希望のためにA大学に何回か連絡するも（女性医師は不要？）必要書類を送っていただけなく悔しい思いをしました。結果無事、日本医大に採用していただきました。入局し男性医師より気持ち多めに働け？気の利く女性医師を演じて？何とか他大学出身&男性社会に馴染むのに必死でした。

大学卒業後（24歳）会社員の男性と結婚

し研修医時代は子供を作らず、仕事を覚えることに専念しました。3年目に夫の1年間NY転勤が決まり教授のお許しを頂き、一緒にNYへ。そこで妊娠、出産を経験し、帰国後2カ月の息子を実認保育園へ預け、働き出しました。まもなく2人目を懐妊、27歳までに年子の子持ち女性医師になりました。下の子が5カ月の時に復職。医局では休む可能性を考慮され、上司とペアで患者さんを受け持ち、当直やバイトは男性医師と同様でした。大きなお腹で埼玉の病院にて当直中、肩の脱臼の方が来院し看護師長さんがお断りして下さったことを今でも覚えております。

働きながらの育児は大変です。パートナー選びは大切！親族、友人、二重&病児保育、ベビーシッター、家事代行など最大限利用。働いても出費は多いですが。

おかげさまで開業して、女性医師を求めてくれる患者さんも増えました。育児の経験を生かして若いママ達にアドバイスも。最近、子供たちのスポーツ障害は増えており、単なる成長痛では済まされません。わ

がクリニックも夕方は小児科のようです。中学生でスマホ肩&四十肩？遊具が減り、木登りなど昭和の遊びをせず、股関節の固いこと！原因不明の下肢痛も諸疾患鑑別し、結果下の子ができた「赤ちゃん返り」だったり。お母さんの顔色も見て育児疲れかな？など。

女性医師の選択肢はたくさんあります。開業も良し、バイトのみも良し、大学でバリバリ手術も良し、研究職も良し。若い頃は辛い外科系に進んだことを後悔した時期もありましたが、今は良かったと思っています。整形外科の良さは乳児から高齢者まで診られる、そして誰もがかかり得る疾患や外傷が多いこと。外来では先股脱の赤ちゃんを抱っこするのが楽しみです。最後に、女性医師のみなさんも権利ばかり主張せず、同僚や先輩へ休ませてもらうことに感謝の気持ちをもって働いてください。そして女性医師が働きやすい職場の確立、さらなる女性医師たちの活躍を望みます。